

3. 視覚障害編

(4) 点字

② 点字の書き表し方

①点字は6つの点で作られた1マスで一つの文字を表します。しかし63通りの文字しか作れないので、濁音(=にごる音)などは2マスで一つの文字を表すこととなります。その時、あてはまる文字の前に「次は濁ります」ということを知らせる点字記号を書きます(点字は左から右へ1マスずつ読んでいくので、最初にお知らせが必要)。

②点字は字の大きさを変えることができないので墨字のような小さな「や、ゆ、よ」や小さな「っ」を書くことができません。拗音の「きゃ、きゅ、きょ」や「しゃ、しゅ、しょ」などは、「か、く、こ」「さ、す、そ」が変化したものなので、その音の前に「次は拗音です」という記号の点字をつけて、2マスで表します。

③点字にはひらがなとカタカナの区別がありません。もちろん漢字もなく、全部かな文字で書き表します。

④言葉のあとにつける「を」はそのまま「を」を使いますが、「は」「へ」は、発音どおり「わ」「え」と書きます。

例)わたしは→わたしわ 本屋へ→ほんやえ

⑤のばす音で、墨字で「う」と書くところは、のばす記号の長音符を書きます。

例)空気→くーき 王様→おーさま 運動しよう→うんどーしよー
きのうのように→きのーのよーに

⑥のばすように聞こえる音でも「あ」「い」「え」「お」は墨字と同じように書きます。

例)お母さん→おかあさん お兄さん→おにいさん 通→とおる

⑦数字にはア行とラ行の10文字が使われるため、かなと数字を区別しなければなりません。そのため、書きたい数字の前に「今から数字が始まります」と知らせる数符を書きます。数字が終わったあと、ア行とラ行の文字があとに続く場合には、数字とかなを区別するために、その間に第1つなぎ符を入れます。

⑧句点(.)、疑問符(?)、感嘆符(!)第1カギ「」、第1カッコ()などを表す点字記号も用意(点字記号表)されています。

⑨点字を書くときは、ことばのまとまりごとにマスをあけなければなりません(文の書きはじめと行変えのはじめは、2マス)。

⑩点字には消しゴムがないため、間違えたら点を指先でつぶして、その上から正しい点字を打ってください。